メリジャパンの活動内容をご紹介

MERI Japan NEWS

―― メリジャパンニュース ――

VOL. 18
2024年
9月10日発行

interview

医の未来を切り拓く ― CSTの現場から ―

CALを通じて患者さんを笑顔にする外科医を育てていきたい

千葉大学大学院医学研究院環境生命医学准教授 鈴木崇根先生

活動報告 クラウドファンディング

高度な医療を安心して受けていただくために、
医療トレーニングの環境を整える

MERI Japan

interview

医の未来を切り拓く

CST（サージカルトレーニング）の現場から

**千葉大学大学院医学研究院・医学部では
医学生や医師がご遺体でのサージカルトレーニング（CST）を行うための
クリニカル・アナトミー・ラボ（以下、CAL）を設立しました。
今回はCALを立ち上げ、運営されている環境生命医学の鈴木崇根先生にお話を伺い、
CAL立ち上げの経緯や今後の展望などについてお聞きしました。**

千葉大学大学院医学研究院
環境生命医学准教授
鈴木 崇根

1999年千葉大学医学部卒業。2001年国立千葉大学整形外科学に入局後、2008年千葉大学大学院医学研究院環境生命医学助教、2018年4月千葉大学大学院医学研究院環境生命医学講師などを経て、2024年より千葉大学大学院医学研究院環境生命医学准教授を務める。

後進的な日本で サージカルトレーニングを 普及させたい

―― サージカルトレーニングセンターであるCALに携わることになった経緯をお聞かせください。

鈴木：2008年3月に解剖学教室の教員が定年退職するタイミングで、解剖実習を指導する教員になってほしいとオファーがあり、解剖学に携わるようになりました。実に15年ぶりにご遺体の解剖に立ち会ったのですが、やはり整形外科医として非常に勉強になりました。病院の同僚に話したところ、当然、皆自分も解剖したいと言ってきました。ところが当時の教授に可否を伺うと、なんと答えはNO。解剖学教室の教員以外の医師がご遺体を解剖することは法に触れてしまうため、許されないという話を聞き、衝撃を受けました。

当時、海外では既に新鮮凍結屍体を用いたバイオメカニクスの研究が進んでいました。私たちはこの分野の論文を読んだり、学会に参加して勉強したりしていたため、医師としてご遺体を解剖しながら勉強することは当然可能であると思っていたのです。しかし、日本では違っていて、ご遺体を解剖できるのは解剖学教室員であることが条件でした。

「なんとかCSTを日本に普及させたい。まずは千葉大学から始めよう」。そう思い、外科の教授陣に相談のうえ、資金援助いただくことでCALを立ち上げることができました。

―― 教授の先生方にCAL立ち上げを相談したとき、否定的な意見はなかったのでしょうか？

鈴木：全くありませんでしたね。むしろ「待ってました！」と言わんばかりの反応でした。外科医の先生方に話を聞いてみると、内視鏡や腹腔鏡などの複雑な手術を研修医に教える機会を欲していたようで、その根底には若手の外科医を教育したいという想いがあったのです。そういった流れで、先生方が私の考えに共鳴してくださり、CALを立ち上げる運びとなりました。

ご遺体を通して医師が 最大限に「学ぶ」ための 管理と案内役に徹する

―― 鈴木先生はCALでどのような業務に携わっているのでしょうか？

鈴木：CALにおけるご遺体の管理を行っています。たとえば、「このご遺体は胸が綺麗だから呼吸外科の先生が使えるように保管しておこう」とか「このご遺体はお腹の癌で解剖に適さないので、頭と手足の外科の先生に使って貰おう」といった形で、先生方からいただくご要望を踏まえて管理しています。あとは、CALを使用したいという先生方に対して、CALの流れや必要な設備、法律に関するガイドラインなどについても説明をしています。

―― 各診療科の先生方のご要望を汲み取って、ご遺体の管理をされているのですね。

鈴木：毎年決まった時期にトレーニングの要望をくださる先生もいれば、突発的にCALを使いたいという先生もいます。先生方との調整がスムーズに進行できるように、適切なスケジューリングを行うよう意識しています。

―― CALに関して、どのような点をやりがいに感じているでしょうか？

鈴木：CALは外科教育の中で、必須のインフラだと思います。つまり、私の中では「やらない」という選択肢はないのです。もともと、私は整形外科医なので、医者として手術をすることで患者さんを治療することにやりがいを感じていました。現在はそれに加えて、「皆が望んでいるけれども誰もやらないこと」を行い、医療の質の向上に貢献できることがやりがいに繋がっています。

―― 先生自身、CALを必要不可欠なものと捉えてらっしゃるのですね。

鈴木：そうですね。外科医であればそう思う人が多いと思います。患者さんは、世界一の手術を受けたいと思っています。しかし、そこに近づくための医師を育てる環境がない。そのギャップを埋めるためにも、CALはなくてはならないものだと考えています。

従来のOJTでは得られないCALの魅力とは

―― 従来のOJT（On the Jon Training 実際の手術の現場で手技を学ぶこと）に比べた場合のCALの良さはどういった点にあるのでしょうか？

鈴木：前提として、手術を行う際はできる限り短時間で終わらせなくてはなりません。たとえば、整形外科の場合、手術による感染率は1%あります。これは手術時間が長くなるほど上がっていきます。あとは、手術時間が延びるほど出血量が増えていくため、多くの輸血が必要になるのです。だからこそ、手術はできるだけ短時間に終える必要があります。そんな中でOJTを行おうとすれば、必要なところに時間をかけて教える事は患者さんの不利益に繋がります。学べる範囲がどうしても限定的になってしまうのです。

一方で、CALの場合はジックリ時間をかけてご遺体を解剖する事ができるため、本人が納得するまで学ぶ事ができます。また、上司となる外科医も、スピード勝負といった制約が無くなることで、手術中の緊張感漂う口調は消え去り、学習者が何回失敗しても怒ることはありません。若手外科医は和やかなムードで指導が受けられます。

―― OJTよりもCALのほうが指導の時間がしっかり確保できるため、学ぶ側の習得率が上がるのですね。

NEXT ISSUE >>

次回も引き続き、環境生命医学・鈴木崇根先生のインタビュー（後編）をお届けします。

取材を終えて

鈴木先生は、医療の質の向上を目的としてCALを立ち上げ、患者さんの治療に貢献できる医師の育成に尽力されています。医学にとってCSTが必要不可欠なものだと捉え、基盤をつくられてきました。また、医学生の教育においても解剖講義と実習を主体的に学べるようさまざまな工夫を行ってきました。結果、学生が行う実習の雰囲気が見違えるように変わったそうです。

次回、鈴木先生インタビュー（後編）にて、学生たちの変化や、彼らに対してどのようなサポートをされているのかを具体的にお聞きしますのでお楽しみにお待ちください

TOPICS

おかげ様で目標達成!!

＼ご支援いただきましたみなさまに感謝申し上げます／

クラウドファンディング

高度な医療を安心して受けるために医療トレーニングの環境を整えたい

メリジャパンはCSTを安定して補助することを目的とし、2023年10月16日から11月30日の期間、クラウドファンディングを実施しました。クラウドファンディングとは、インターネット等を通して活動を発信することで、想いに共感した方や活動を支援したいとお考えの方から資金を募るしくみです。

おかげさまで目標の100万円を大きく上回り、支援者83名のみなさまから総額1,645,000円のご支援をいただくことができました。ご支援とご協力をいただきましたみなさま、誠にありがとうございました。このご支援をもとに今後の活動をより充実させてまいります。

ご報告

ご支援いただいた資金からCSTを実施するときに欠かせない物品を1,196,011円分購入しました。すでにCSTに参加された講師の先生方からも「例年より設備・器具が充実していて良かった」とのご意見をいただいています。下記にある写真のもの以外にも、セミナーで使用する備品（ポータブルのプリンター、延長コード、折りたたみアラームクロック等）も購入することができました。今後も引き続き支援金使途についてご報告してまいります。

2024年7月1日現在

ネックガード
（放射線防護用）6枚

プロテクター
（放射線防護用）15枚

電子ポケット放射線
線量計10個

ゴーグル
（放射線防護用）6個

鋼製小物各種

医療を育てる活動の輪に、あなたもご参加ください

メリジャパンでは、多くの方々に高度な医療を安心して受けていただけるよう、医療技術向上のためのサージカルトレーニング（CST）の実施補助をしております。活動にご賛同いただける方からのご入会・ご寄付を受け付けておりますので、ぜひご協力ください。お問い合わせをお待ちしております。

会員のご案内

正会員	総会議決権を持つ会員です。 運営にも積極的に関わっていただきます。	個人会員	5,000円
		法人会員	10,000円
賛助会員	総会の議決権はありません。 活動を支援してくださる方が対象です。	個人会員	3,000円
		法人会員	5,000円

ご寄付について

活動を推進するためのご寄付を募っています。お預りした寄付金は、CSTに必要な消耗品等の購入・環境整備等に使わせていただきます。ぜひご協力をお願いいたします。くわしくは、お電話またはメールにてご相談ください。

※当法人への寄付については、税額控除の対象にはなりませんのでご了承ください。

MERI Japan
特定非営利活動法人メリジャパン
〒464-0821名古屋市千種区末盛通2-4 はちや整形外科病院内
052-784-8775
meri_info@hachiya.or.jp